

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100636		
法人名	医療法人社団慶城会 神舞の里		
事業所名	グループホーム仰星台門川		
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町大字河内字新藤2671-2		
自己評価作成日	平成30年11月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4572100636-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内から離れた山間にあり、清閑で自然豊かな場所にあります。ホームの理念である、『利用者様の気持ち、同じ目線になって心の通う介護を目指します』をもとに職員一同が理念を共有し、個々を尊重したケアに取り組んでいます。また個々の能力に応じて、利用者様に出来ることをお願いしています。母体が医療法人の為支援体制も充実しております。環境にも恵まれた施設の中での生活をのんびりとし、かつ安心して生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は、緑で囲まれた、のどかな里山である。理念に掲げている「利用者の気持ちに寄り添い、くみ取ること」を大切に、職員のスキルアップを行うことで、介護力を高めるよう取り組んでいる。母体である医療機関との連携に努め、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念を念頭において利用者を支援し、利用者の立場になって心の通うケアに努めている。	理念を踏まえ、利用者の気持ちに寄り添い、地域で穏やかに暮らせる支援に努めている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、地域の行事には参加している。開放された環境づくりに努め、地域や地域の小・中学校との交流を図っている。学校の行事にも参加している。	づ地域行事に参加し、また、小中学校の生徒、先生方との交流を大切に地域と繋がりながら暮らせる支援をしている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に活かされているかどうかかわからないが運営推進会議等を通して認知症の方の理解や支援の方法を共有できるように努めている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者様の状態や活動報告や取組等を報告し、意見や情報交換を行っている。他法人の施設の職員も参加し、サービスの向上に努めている。	利用者の家族も参加して2か月に1回の割合で開催している。会議時間が30分の為、事業所の現状報告等に終わることが多く、そこでの意見をサービスの向上に生かせていない。	事前に現状での困りごと等を提示することでそれぞれの意見を持ち寄り、ゆとりある討議時間設定に変更することに期待したい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行き来する機会は少ないが、町が主催する研修や行事には参加するようにしている。またわからないことがあれば電話等で聞くようにしている。運営推進会議にも出席していただいている。	分からないことは電話やメールで連絡を取り合ったり、出来るだけ窓口に向う努力を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し、3か月に1回、身体拘束の話し合いをしている。身体拘束は現在していないが、玄関の施錠を18時以降している。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ拘束について学習し、リスクマネジメントを行っている。職員は身体拘束と言葉の拘束を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば参加するようにしている。虐待については声掛けなど意識し、ケアを行い虐待が無いように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会は少ないが参加するようにしている。ご家族から相談等があれば関係機関に橋渡しするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問を尋ね、十分な説明をしている。契約後もご本人やご家族の面会時など気が付いた事や不安等について尋ね、声掛けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には声掛けし、コミュニケーションが図れるようにしている。運営推進会議にも参加していただき、意見を言ってもらっている。不安や要望が気軽に言えるような雰囲気作りをしたい。	今年度から家族も運営推進会議へ参加することで、事業所の実情を理解しやすくなり面会時に意見や要望が出されている。職員はコミュニケーションを図り運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス等で職員の意見を言う機会はある。また日々の申し送りなどで職員の意見や提案を発言してもらっている。	申送りや会議の中で意見や要望を聞いている。また、支援記録を担当制にしており、その情報をすべての職員が共有することで食事形態や介助方法を改善し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算が導入されたことで各個人向上心が持てるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務に合った研修や勉強会に参加する機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で他施設との情報交換をしたり、法人内でも定期的に交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めている。またカンファレンスや申し送り等で統一したケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安なことの話をしっかりと聞いて、理解し関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がその時点でまず何が必要なのかを見極め出来る限りの対応に努めている。対応できない場合、他事業所の利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く持ち、会話を多く持つことでいろいろと話が聞けている。また一緒に作業することで同士の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回お手紙を出し、利用者様の日常を伝え意見を聞き、ともに共感できる雰囲気作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状態が重度化して、なじみの場所に行くことは困難になってきている。可能な方はご家族と一緒にいきたい場所に連れて行ってもらっている。また、ご家族以外のご近所様や友人等本人と付き合いがあった方に来てもらったりしている。	家族の協力のもとで馴染みの場所や人との関係作りを支援している。また、実家周辺の地域住民が事業所を訪問できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールで過ごしていただき、他の利用者様や職員とかかわりが持てるよう工夫している。トラブルがある時は職員が間に入り、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の継続的な関わりは持っていないが、入院時にはお見舞いに行ったり、ご家族に電話を入れ様子を伺うようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望や意向の把握に努めている。また意思疎通の取れない方についてはご家族と話をして本人本位に検討している。	日々の暮らしを通して利用者の意向や希望を把握することを大切にしている。家族や友人から生活歴や特徴などを聞きケアに反映させるよう取り組んでいる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や暮らし方を本人やご家族に聞いて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力、わかる力を日頃の生活から把握し、身の回りのことやお手伝いをしてもらっている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを実施し必要に応じてご家族に相談し作成している。	個別記録や申し送りノート、カンファレンスと家族の意向を取り入れてケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い随時、ケアプランを見直すよう努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り、カンファレンス等で情報を共有し、実践や見直しに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人でもあり、必要に応じ、柔軟な支援やサービス提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別的には難しいが、全体的には区長、民生委員、学校の方々と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院でもあり、支援できている。必要に応じてご家族と協力し、他科受診もしている。	母体がかかりつけ医の利用者が多い。精神科や整形外科の診療科目があり、その他の医療機関に受診する場合は家族が同行し情報提供をするなど受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤として勤務しており、日常の健康管理が出来ている。日常の健康管理には全職員が把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態や入院期間についての連絡を取り、対応するようにしている。また情報提供書なども活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めにご家族と連絡を取り、相談を行い、職員間で共有している。終末期ケアについては終末期を施設で迎えるかどうかをご家族と話し、施設で出来ること、出来ないことを説明したうえで早い時点で決め、職員、ご家族、医師との連携に努めている。	入居時に終末期時の事業所の方針を説明している。母体の医療機関に移行可能である事、事業所の終末期における可能、不可能な事の説明を行い、意思確認をしている。また、状況に応じ随時話し合いながら家族の意思を確認し支援体制づくりに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自で救急法の勉強会はしていないが、法人内・外での研修には参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。消防署の職員にも来ていただき、講評・講話をしてもらっている。災害時の為の食料や飲料水も準備している。	年2回消防署参加のもと防災訓練を実施している。立地条件から住民の参加が難しい為、地元職員が主体となっている。水災害時は住民の避難所の役割を担うため準備をして災害対策に取り組んでいる。非常食や水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の仕方については気を悪くされないように注意をしている。	接遇研修ではプライドを傷つけない言葉かけや接し方を学習している。職員は日々の業務遂行で気付いたことをロールプレイングし合うことで資質向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を出来るだけ引き出し、納得のいくような生活が出来るように支援している。決定が難しい方は表情や様子を見ながら支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿っているかどうかわからないが、各個人に合わせ、マイペースに過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得て行きつけの美・理容室に行かれたり、好きな髪形をしたり、おしゃれな服を着たりしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態の重度化が見られ、出来る人は限られているが、個々の能力に応じて、台拭き、食器拭き、味見等のお手伝いしてもらっている。利用者の希望に応じて好みのものを提供している。	利用者は力量に応じた調理の準備や後片付けを行っている。また、行事食や誕生日には希望を取り入れまた、利用者の健康状態に合わせた調理工夫をして食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量のチェックをしている。また個人に合わせ形態や量などに工夫している。野菜を中心としたバランスの取れた食事を提供できるように努めている。また水分量の少ない方はお茶ゼリーをすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛け、誘導、見守り、各個人の能力に応じた支援を行っている。また、紙パンツ、布パンツの切り替えなどは必要に応じて職員間で話し合い、対応している。	利用者の排せつパターンを把握し、トイレへの誘導や声掛けをして自立支援を行っている。尿意を伝えられない利用者の声掛け対応策を学習し職員間で共有して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行い、一人一人の状態の確認を行っている。出来るだけ薬に頼らないように、水分摂取、食事の工夫、また散歩を取り入れるようにしている。昼食後には乳酸菌飲料を飲んでもらったり、果物やイモ類のおやつや食事を取り入れるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っている。時間を希望されることはないが、要望があれば出来るだけ対応したい。	毎日入浴支援を行っている。利用者の希望や健康状態に合わせた柔軟な対応を行っているが熱発、血圧異常がある場合は清拭、部分浴を行い、また、ゆず風呂等で入浴を楽しめるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のペースに合わせた時間に居室へ戻り休んだり、また空調の整備、不眠時の対応も日中の散歩や外気浴を取り入れたりするなど、状況に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の効力や変更について職員間で申し送り等を通して把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯ものたたみ、食器洗いをしたり、歌を歌ったり、新聞を読んだり、一人一人が楽しみを見出せるように支援している。またおやつも個人で好きなものをご家族が準備したりしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態の重度化が進み、外出する機会が少なくなったが地域の行事ごとにご家族と一緒に参加したりしている。またご家族と一緒に外出されたりしている。	日常的には近辺を散策したり、利用者の身体状況に応じた地域行事に参加し、住民との交流を楽しめるよう支援している。また、時には家族と一緒に馴染みの場所や外食などが出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣い預かり、職員が管理している。小遣い帳をつけ、定期的にご家族に報告している。ご本人の欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況、状態、ご家族の都合により、出来ない方もあるが、出来る限り支援している。また携帯電話も所持している利用者様もあり、いつでもご家族とやり取りできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やご本人の作成した絵などを飾り、ゆっくりと過ごせる空間がある。台所もホールへと続いており、食事を準備する音、においも生活の中で楽しめていると思う。また時間に合わせ音楽をかけてくつろいで頂けるよう心掛けている。	週1回全館の消毒(塩素系)を行い、安心安全な環境整備を心掛けている。季節に応じ空調管理では室温調整や加湿器を使用して健康管理に努めている。多目的ホールには季節の花や作品等が置かれ、居心地よく暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、それぞれが腰掛けられるようにしている。利用者様同士、腰掛け、会話も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで頂くようにしている。居室の片づけが出来の方はおまかせし、見守るように配慮している。またご家族が面会時に衣替えされたり、片付けされたりもしている。	利用者の使い慣れた布団や家族の写真、小物等を持ち込み、居心地よく暮らせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時々、居室を間違えられたり、分からなくなったりする利用者様には付き添い、混乱を防ぐため目印となるものを置いて説明したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容